

# 50周年記念助成に期待する

【自然科学】

## 若手助成

堀田 凱樹 理事

(平成16年～23年自然科学選考委員長)



三菱財団が設立50周年にあたり、従来の助成に加えて新助成事業を始められると聞き、嬉しく思います。特に「自然科学・若手助成」は、近年の若手研究者の恵まれない研究環境や、それと無関係ではない我が国の研究水準の沈滞を考えると、時宜にかなったものであります。新しい「若手助成」の芽が大きく育ち、それを期に国としての基礎研究支援が充実して、我が国の研究環境が若手にとって魅力的なものになることを願ってやみません。私自身も独立して苦しい時期にいただいた助成のありがたさを今でも忘れることはできません。

【人文科学】

## 大型連携研究助成

榎山 紘一 理事

(平成19年～26年人文科学選考委員長)



人文科学研究が、史料や文献にもとづき、体系的な理論・歴史研究の形をとるのは、かねてからの伝統でした。しかし近年にあって、より具体的な社会性を帯びた課題解決のための実証研究にも、強い意欲がわきおこっています。

ことに2011年の東日本大震災以来、この傾向が確実に拡大しているようにも見えます。今回の「研究助成」開始は、こうした背景のもとに、新たな境地を切り開く研究を支援しようとする試みです。趣旨をご理解のうえ、奮ってご応募のほど期待しています。

## 50周年記念シンポジウムについて

当財団設立50周年の記念日に2019年度贈呈式と合わせてシンポジウム、パーティーを行う予定です。詳細は決まり次第お知らせいたします。

日時：2019年9月11日(水)  
13時半～18時半  
場所：東京會館  
千代田区丸の内3-2-1

内容：13時半～ 2019年度助成金贈呈式  
15時～ 記念シンポジウム  
基調講演、パネルディスカッション等  
テーマ：「三菱財団と社会貢献」(仮題)  
17時～ 記念パーティー

【社会福祉】

## 助成金増額及び事業見直し

多田 宏 評議員

(平成16年～19年社会福祉選考委員長)



社会福祉助成の対象範囲は非常に広く、また、助成額は他財団に比べて規模が大きいことが知られている。今回の事業案件向けの見直しによって更に多様な案件にバランスよく助成されることが可能になった。また、金額も更に10百万円増額された。

50周年記念にふさわしい、熱意のこもった、社会に貢献できる意義ある案件が、研究、事業双方の領域から数多く採択されることを願っている。

【文化財修復】

## 文化財修復事業助成

佐々木 丞平 理事

(京都国立博物館館長)



この度三菱財団50周年を記念して、人文科学分野の中に特別助成として「文化財修復事業助成」が新たに発足することになった。この制度は、国宝や重要文化財に指定されているものではないが、いずれはそうした重要な文化財として位置づけられるべき予備軍として守らなければならないものに対する、修復のための補助制度である。この制度が文化財修復という日本の伝統文化を支える基盤に大きく貢献してくれることを期待している。

公益財団法人  
三菱財団  
ニュースレター

50周年記念増刊号

The Mitsubishi Foundation

50周年記念増刊号

2019 January

# NEWS Letter

## 三菱財団50周年を迎えるにあたって



公益財団法人三菱財団  
理事長

大宮 英明

あけましておめでとうございます。

日頃より三菱財団に格別のご高配、ご支援を賜りまして、洵にありがとうございます。

本年、弊財団はいよいよ設立50周年を迎えます。昭和44年(1969年)、三菱創業100周年記念事業として設立され、以来、多方面の皆様からのご指導、ご支援をもちまして今日を迎えることができました。とりわけ、平成26年度より5年間にわたり総額100億円を拠出頂き、安定的な業務運営を継続することができました。拠出頂いた皆様には、改めて、厚く御礼申し上げます。

弊財団は本年度ならびに来年度を50周年記念年度とし、設立趣旨とその後のわが国の社会や財団を取り巻く環境の変化を踏まえ、新たな視点でこれまでの業務運営を見直し、いくつかの記念行事を実施することとしました。具体的に

は①未来を見据えた人材の育成、②財団がこれまで培った「アセット」の活用、③文化・芸術分野への支援、④より開かれた財団を目指す、といった観点から記念行事、今後の業務運営の在り方を検討しております。

このニュースレター 50周年記念増刊号では、来年度に実施する記念助成事業をご紹介致します。自然科学、人文科学、社会福祉の3分野において既存助成の見直しを含め計4つの助成プログラムを記念事業として実施することと致しました。詳細は次ページをご覧くださいと思いますが、いずれも上述の見直しの諸観点からの検討を重ね、設立趣旨に沿い、また、今の時代のニーズを反映した助成プログラムです。多数のご応募を頂き、その中から優秀な案件に助成させて頂くことによって、社会貢献の一助となることを願っております。

なお、記念助成に続いて、記念シンポジウムの開催をはじめ、新たな観点から更なる施策の検討も始めており、今後、皆様にご報告させて頂きたいと考えております。

皆様におかれましては、新たな半世紀を踏み出す三菱財団に、今後も変わらぬご厚情、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## Natural Science

自然科学分野

### 若手助成

自然科学分野助成においては助成金額を3,000万円増額し、総額3億3,000万円とするとともに、通常の助成事業に加え「若手向け研究助成」(若手助成)をその内枠として新たに実施します。若手研究者の方で、指導教官から独立して初めて研究を開始される方などからの、若手らしい挑戦的な研究を対象としています。

#### ■ 助成対象(若手助成)

- ①2019年4月1日現在40歳未満の方、但し、40歳未満の方でも博士の学位取得者については学位取得後10年未満の方とします。(産前・産後休暇、育児休業の期間は除く)
- ②営利企業等及びその関係者は対象外となります。

- 総 額 約6,000万円程度を目途  
(1件当り一律400万円)  
(採択予定件数 最大15件を目途)
- 応募期間 2019年1月9日(水)～2019年2月6日(水)

- ③代表研究者及び協同研究者は、本財団の同年度の助成に複数応募することは出来ません。従って、代表研究者が(他分野も含め)他の応募案件の協同研究者を兼務したり、協同研究者が他の応募案件の協同研究者を兼務することも出来ません。

## Social Welfare Activities

社会福祉分野

### 事業助成の見直し

社会福祉事業・研究助成においては助成金総額を1,000万円増額し、総額1億円とするとともに、事業助成における、これまでの「開拓性・実験性」「新しい視点」「普遍化の可能性」の要件を緩和し、意欲的な福祉事業案件の応募を採り上げていきます。

- 増 額 約1,000万円を予定
- 応募期間 2018年12月27日(水)～2019年1月24日(水)

#### ■ 事業の見直しについて

- ①“事業”においては、公的援助が得にくく、社会的意義があり、他地域への発展・普及の可能性のある活動、もしくは福祉現場における“地域性・個性”が高い活動、あるいは“実践的、草の根的”な活動に基づくものについては、“開拓・実験性”に拘らず、採り上げることもあります。
- ②事業のスタートアップ資金の場合、助成期間終了後の事業継続可能性が明示されることを条件に、一部経常的資金への支援を認めることがあります。

## Humanities

人文科学分野

### 社会的課題解決のための大型連携研究助成

人文科学分野助成においては助成金額を2,000万円増額し、総額8,000万円とするとともに、通常の助成事業に加え「社会的課題解決のための大型連携研究助成」(大型連携研究助成)をその内枠として新たに実施します。社会的課題解決を目指した、既成概念を破るチャレンジを期待した助成です。

#### ■ 大型連携研究助成について

- ①異なる専門領域の複数のメンバーの方がチームを形成し、同一の社会的課題解決のため、より多角的に、連携してダイナミックに挑戦する提案型の応募です。
- ②大型連携研究助成の応募につきましては、助成金額、期間等について、より柔軟に対応します。(応募上限金額1,000万円、期間は案件により3年まで認めることがあります)

- 総 額 約2,000万円程度を目途  
(採択予定件数4件程度を目途)
- 応募期間 2018年12月19日(水)～2019年1月16日(水)

## Restoration of Cultural Properties

文化財修復事業分野

### 文化財修復事業助成 開始

50周年記念特別助成として、「文化財修復事業助成」を新たに実施します。我が国の文化の向上に資する文化財修復案件を積極的に採り上げる予定です。

- 総 額 約2,000万円(採択予定件数 10件程度)
- 応募期間 2018年12月19日(水)～2019年1月16日(水)

#### ■ 助成対象

- ①文化財保護法第二条第1項に規定される有形文化財のうち、建造物を除く文化財(絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書その他の有形の文化的所産で我が国にとって歴史上または芸術上価値の高いもの並びに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料……美術工芸品)
- ②日本国内に所在する、屋内展示可能なもの
- ③修復に伴う社会的意義の高いもの
- ④国宝・重要文化財(国指定)の修復は対象外とします



## 楽の会リーラ主催「ひきこもりの地域家族会連絡協議会」参加報告

9月24日、平成28年度社会福祉助成先である楽の会リーラ主催の「ひきこもりの地域家族会連絡協議会（東京・池袋）」が開催され、当財団常務理事渡邊が参加しました。廃校した小学校を利用した豊島区のコミュニティー施設に集まったのは東京都内の区や市で活動されている家族会の方々。当事者の方も参加されていました。現状、まだまだ行政がカバーしきれない様々なひきこもりの問題について、家族

会の方々より課題の所在、家族会結成の経緯、現在の活動状況などについて報告がありました。活動事例の情報共有が今後のより生産的な活動のためのヒントとなることもわかり、家族会団結の意義も確認されました。

一方、ひきこもりの当事者の様々なケースが示され、問題解決が一律にはいかない中、地域ぐるみの対応、また個々の本人目線に沿った課題解決の重要性につい

ても認識を共有しました。会の進行を担当された事務局の方はご本人自身ひきこもり経験のある当事者ですが、軽妙なやりとりで明るく会を進められていたのが印象的でした。



協議会風景

## 「児童養護施設における性的マイノリティ（LGBT）に関するヒアリング調査」報告会参加

当財団常務理事渡邊が、9月29日、三菱財団が助成させて頂いた「児童養護施設における性的マイノリティ（LGBT）に関するヒアリング調査」の報告会（東京・水道橋）に出席しました。調査を実施した一般財団法人レインボーフォスターケアは、里親になって子供を育てたいLGBTの方々や里親や児童養護施設など養育を必要とするLGBTの子供たちの問題解決に取り組む団体です。

調査報告会では性教育を専門とされる

研究者、児童養護施設で勤務される方、LGBT当事者の方など様々な方が壇上に立たれ、LGBTの児童たちの養護施設における実態調査結果に対し、問題解決に向けた積極的な発言がなされました。我が国の養護施設の現場では、性の多様性に対する職員の認識不足に起因する問題がまだ多く、LGBTに対する一層の理解の必要性を痛感しました。特にトランスジェンダー（体と心の性の不一致）の児童たちの直面する問題が際立って深刻で

あるとの調査報告でした。一方で、LGBT特有の問題としてではなく、わが国の性教育全般の問題や児童養護施設全体として解決しなければならない課題が多数あることも認識されました。



報告会風景

## TOPICS

### 平成30年度研究成果報告会・贈呈式を開催!

9月11日(火)、東京丸の内三菱クラブで、平成30年度研究成果報告会及び助成金贈呈式を開催いたしました。

贈呈式に先立って行われた研究成果報告会は、昨年を引き続き2分野からの報告となり、まず、自然科学分野から熊本大学大学院生命科学研究部老化・健康長寿学分野三浦恭子准教授に、続いて社会福祉分野から同志社大学社会学部永田祐教授に報告頂きました。報告会では、自然科学分野佐藤勝彦委員長の挨拶のあと、お二人から約1時間半にわたり成果報告及び質疑応答が行われ、最後に社会福祉分野水田邦雄委員長の講評が行われました。

報告会に続いて開催された助成金贈呈式には、助成金受領者の方はじめ、提出会社、当財団役員、選考委員、来賓の皆さま約210名の方々が参集し、厳かな雰囲気の下、式典が進められました。

今年度も、自然科学研究1,043件、人文科学研究313件、社会福

祉事業・研究232件、総数1,588件と多数の応募の中から、選考委員会による厳正な書類審査、面接等を経て、最終的には119名・団体の方々に総額4億5,000万円の助成を実施いたしました。

- 自然科学研究 50件、助成額3億円
- 人文科学研究 32件、助成額6,000万円
- 社会福祉事業・研究 37件、助成額9,000万円

贈呈式では大宮理事長の挨拶に始まり、各分野選考委員長からの審査報告、助成金受領者の紹介が行われた後、理事長から各分野代表者に助成金贈呈書が手渡され、3分野代表者によるスピーチで終了しました。その後開かれた情報交換会では、和やかな雰囲気の下、助成金受領者、選考委員、財団役員、来賓の方々により、分野の垣根を越えた活発な意見交換、交流、親睦が図られました。

## Information

### おめでとう

—2018年7月以降の主な受賞者の方々—

ノーベル賞	本庶 佑 様 (昭和55年自然科学助成者) デニムクウエゲ 様 (平成29年人文科学研究助成者 華井和代様の協同研究者)	旭日重光章 瑞宝重光章	荒蒔 康一郎 様 (元財団評議員) 佐藤 勝彦 様 (平成18～25年自然科学選考委員、 26年～自然科学選考委員長)
文化勲章	長尾 真 様 (現財団評議員、 平成9～13年自然科学選考委員)	瑞宝中級章	上村 大輔 様 (平成19年自然科学助成者) 小田 忠雄 様 (平成11年自然科学専門委員) 大日方 昂 様 (昭和56年自然科学助成者) 加藤 洋治 様 (平成5年諸事業助成者) 小林 俊一 様 (昭和48年自然科学助成者) 佐藤 矩行 様 (平成3年自然科学助成者) 鈴木 不二男 様 (平成3年自然科学助成者) 山上 皓 様 (平成12年社会福祉助成者)
文化功労者	宇井 理生 様 (平成3～7年自然科学選考委員) 新海 征治 様 (平成17年自然科学助成者) 森 和俊 様 (平成22年自然科学助成者)		
紫綬褒章	影山 龍一郎 様 (平成18年自然科学助成者) 中條 善樹 様 (平成15年自然科学助成者)		

Congratulations!!

### ありがとう

—退任された評議員・役員の方々—

自然科学選考委員	西村 いくこ 様 島山 昌則 様 八島 栄次 様
人文科学研究委員長	岸本 美緒 様
人文科学研究委員	市川 裕 様

Thank you!

### ようこそ

—新任の評議員・役員の方々—

自然科学選考委員	長谷部 光泰 様 中山 啓子 様 濱地 格 様
人文科学研究委員長	谷本 雅之 様 (選考委員より)
人文科学研究委員	石川 禎浩 様 下田 正弘 様

Welcome!



自然科学分野報告会



社会福祉分野報告会



贈呈式佐藤委員長審査報告



贈呈式岸本委員長審査報告



助成者代表挨拶 (自然)



助成者代表挨拶 (人文)



助成者代表挨拶 (福祉)



贈呈書授与 (助成者と大宮理事長)



情報交換会



贈呈式風景



## 長寿齧歯類 ハダカデバネズミがもつ 老化耐性・がん化耐性の仕組み

ハダカデバネズミ (Naked mole-rat, NMR) は、エチオピア・ケニア・ソマリアの地下に生息する齧歯類である。昆虫のアリやハチに類似した分業制社会を持ち、地下にトンネルからなるコロニーを形成して集団生活を営む。マウスと同等の大きさながら約10倍の寿命を有し(平均寿命28年)、これまでに腫瘍形成がほとんど認められていないがん化耐性が特徴だ。さらに地下の約7%の低酸素環境へ適応しており、哺乳類でありながら低体温(32度)かつ外温性(外気温に体内温を依存)という珍しい特徴を併せもち、近年研究対象として注目を集めている。

これまでに、ハダカデバネズミの抗老化・抗がん化・社会性のメカニズムの解析のため、NMR-iPS細胞の樹立や3D MRI 脳アトラスの構築、各種臓器における遺伝子発現情報の整備など基礎的な研究基盤を確立してきた。次に、樹立したNMR-iPS細胞の解析を進めた結果、興味深いことに、がん化耐性齧歯類ハダカデバネズミから樹立したiPS細胞は、in vitroでの三胚葉への多分化能を持ち長期継代維持が可能に



【三浦先生 報告要旨】

も関わらず、マウスやヒト由来のiPS細胞と異なり、未分化状態で移植された場合の造腫瘍性(奇形腫形成能)をもたないことを見出した。

そこでNMR-iPS細胞の腫瘍化耐性を規定するメカニズムに関して解析を行ったところ、動物種特異的ながん抑制遺伝子ARFの発現維持機構とがん遺伝子ERAsの機能欠失により、腫瘍化耐性が制御されていることが判明した。また、個体の老化耐性に寄与すると考えられる、細胞老化に対する特異な応答性が明らかになってきている。

平成30年3月には、熊本大学に約1500匹を飼育できる大型の飼育施設が完成した。今後は、より効率的な繁殖技術の確立を目指しながら、ハダカデバネズミのモデル動物化に向けて、一層研究基盤を充実させていく。



発表される三浦准教授

選考委員 講評

### 奇妙なネズミが解き明かす長寿とがんの謎



自然科学選考委員  
高山 昌則

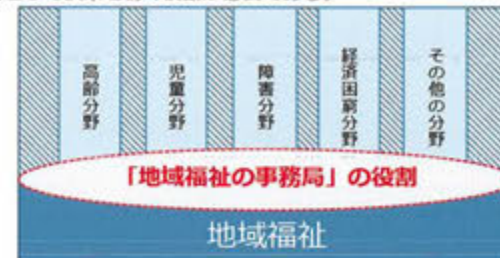
想像してみてもほしい。我々(ホモ・サピエンス)に、平均寿命が500才を超え、がん(癌)で死ぬことがない仲間がいる世界を……。驚くべきことに、ネズミ(げっ歯類)では、この話は現実なのである。ハダカデバネズミという奇妙な風貌のネズミは、ミッキーマウスのようなネズミの10倍に及ぶ寿命を持ち、これまでに報告されている5000匹以上の剖検例で、がんはわずか数例にしか見つかっていない。ユニークで優れた研究・実験モデルと出会えるか否かは、自然科学に金字塔的な成果を打ち建てるための大きな要素と言える。三浦恭子

熊本大学准教授は、三菱財団の研究支援のもと、ハダカデバネズミとiPS細胞技術ならびに先進のゲノム医学的手法を組み合わせることで、このネズミが「長寿」と「がん抵抗性」を獲得した謎に迫りつつある。テレビのコマーシャルでは、若返り、アンチエイジング、がん予防、健康長寿、といった言葉が踊っている。三浦博士の研究が、こうした言葉に真の学問的基盤を与えてくれることを大いに期待したい。ハダカデバネズミの風貌を見る限り、アンチエイジングがそれほど魅力的なことなのか、という要らぬ疑問は残るが、

協働実践の土台が必要

実践者が抱える課題を集め、共有するための場をつくり、「何とかしたい」という思いを持った実践者とともに活動を組織化すること。⇒協働実践の媒介者として横系を紡ぐ役割が必要である。

## 越境する地域福祉実践 滋賀の縁創造実践センター との実践研究



【永田先生 報告要旨】



発表される永田教授

現在、日本では、一つの家族の中で複数の問題が折り重なって生活に困窮したり、それが容易に予見されるようなケースが増加している。こうした問題は、たまたまそうした不幸な家族があるということではなく、家族の規模が縮小し、職住分離がますます進み、グローバル化によって雇用環境が大きく変化する中で、中間集団とうまくつながれず、複数の不利が重なることで社会の周縁に追い込まれてしまう社会的孤立の問題が深刻になっていることを示しているといえる。一方、家族や地域、日本型雇用を前提に、対象者別に縦割りに組織されてきた社会保障や社会福祉は、こうした制度のはざまや複数の課題を抱えた家族の問題に十分に対応できない。ある専門職は、気づいた課題に蓋をせざるを得ない経験を「埋め戻す」と表現し、そうした経験をいくつもしてきたと語ってくれた。

滋賀の縁創造実践センターは、こうした課題を解決していくために、滋賀県の民間の社会福祉関係者が作り出した

プラットフォーム型の組織であり、分野を越境して関係者が課題を共有し、創造的な協働実践を作り出しているという取り組みである。社会的孤立や制度のはざまといった現在の福祉課題を解決していくためには、課題に気づいた人たちが「のりしろ」を出し合って、新たな取り組みを進めていくことが必要であり、本研究では、そのために必要な条件を滋賀の縁創造実践センターの様々な実践のプロセスから明らかにしようとしてきた。居場所のない子どもたちのフリースペースを運営する高齢者施設、児童養護施設で暮らす子どもたちの社会への架け橋として、就労体験に取り組む中小企業など、様々な取り組みを進めている関係者へのインタビュー調査の結果、①気づいた課題を持ち込める「場」の存在、②放っておけない課題を知ることで「心が動かされる」経験、③柔軟に活用できる民間財源の存在、そして④こうした志が出会う場をコーディネートする「地域福祉の事務局」の存在が、越境する地域福祉実践の条件であることを明らかにすることができた。報告会では、申請段階から様々な形でご支援をいただいた三菱財団への謝意と、「越境する地域福祉実践」(全国社会福祉協議会、2018)として成果を出版することができたことも併せてご報告させていただいた。

選考委員 講評

### 先進的な「滋賀の縁創造センター」の試み



社会福祉選考委員長  
水田 邦雄

今回発表された「滋賀の縁創造センター」の活動は、県内の福祉関係者が幅広く自主的に参画してプラットフォームを構築し、分野ごとの専門職が抱えている、「制度のはざま」にある問題や複合的な問題など既存の枠組みでは対応し難い事例を持ち寄り、互いの領域を越えて活用可能な資源を見つけ出すことによって課題解決に当たろうとするユニークな事業です。個々人の「困っている人を何とかしたい」という思いを、自らの職務外として

放置せず、また、まず行政に持ち込むのではなく、「我が事」として受け止めようとする取り組みは、先進的対応であるとともに、今日の社会環境の下における福祉の原点回帰の試みと評することができます。また、事業者と研究者の連携・協働の成果として報告が纏められており、多彩な実践事例の紹介のみならず、活動のプロセスを分析した上で、地に足のついた新たな方法論の展開に至っている点が高く評価されます。